



TITLE:

Forest Resources Utilization in Korean-Chinese Ethnic Minority Villages, from the Perspective of Landscape Conservation(Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

Fan, Lei

CITATION:

Fan, Lei. Forest Resources Utilization in Korean-Chinese Ethnic Minority Villages, from the Perspective of Landscape Conservation. 京都大学, 2016, 博士(農学)

ISSUE DATE:

2016-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k19783>

RIGHT:

許諾条件により本文は2016-10-01に公開

(続紙 1)

京都大学	博士（農学）	氏名	樊磊
論文題目	Forest Resources Utilization in Korean-Chinese Ethnic Minority Villages, from the Perspective of Landscape Conservation （景観保全の視点から見た中国朝鮮族村落における森林資源の利用状況）		
（論文内容の要旨）			
<p>本論文は、中国朝鮮族村落において急速に喪失しつつある伝統的農村景観についてその保全のあり方を示すことを目的として、農民の日常生活の中で維持されてきた多様な森林資源利用に関する伝統的知識の分析と森林資源利用の実態及び現状に至った要因を把握するための調査結果の解析によって行われた研究に基づいている。さらに、過去に断片的に行われてきた先行研究の成果を踏まえたうえで、森林資源利用と管理の変遷や農民の経験則を環境デザイン学的な手法によって解析し、朝鮮族村落の景観保全の現状に一石を投じようとしたものである。論文の内容は以下のように要約される。</p> <p>第一章では、序論として、急速な経済成長を続ける中国の中で、延辺朝鮮族自治州における朝鮮族離農者の増加や新規住宅建設によって引き起こされている社会的な変化と問題点が、村落の景観保全や伝統的な森林資源利用と管理の視点から抽出されている。また、先行研究の成果の総括を通して、本研究の位置づけと目的を述べ、本論文の構成を示している。さらに、本研究の調査対象地となった、中国人民共和国吉林省延辺朝鮮自治州の図們江沿岸部に位置する敬信鎮の9箇所の朝鮮族村落、及び調査対象となった農民に関する概略が述べられている。</p> <p>第二章では、木造の家屋及び付属構造物における木材資源の利用状況が分析されている。朝鮮族の民家は一般に、主屋、煙突、倉庫、小屋、便所、牛小屋、垣根という7種の木造構造物で構成される。本章では森林伐採に関する林業政策の分析、木造構造物における木材利用実態調査、木材資源利用と管理に関する聞き取り調査とアンケート調査の解析結果に基づいて、伝統的な木造構造物における木材利用の現状が分析された。その結果、構造材には伝統的に、チョウセンゴヨウ (<i>Pinus koraiensis</i>)、モンゴリナラ (<i>Quercus mongolica</i>)、トウシラベ (<i>Abies nephrolepis</i>) の3種が主に利用されてきたこと、1980年代以降の政策転換により木材資源利用が制限された結果、多くの森林では枯死木や風倒木しか利用できなくなったこと、2000年代以降に政府主導で推進された新規住宅建設においてはレンガ、PVC、鉄などの利用が奨励され、木造構造物の減少や放置を招いたこと、等により、伝統的な農村景観の維持が困難になっていることが明らかにされた。これらのことから、景観保全のためには、伝統的な木材資源利用形態の保全、農民の木材資源利用に対する社会の幅広い理解、新規住宅建設における柔軟な許可制度、等に関する政策面での検討の必要性が示唆された。</p> <p>第三章では、薪資源の利用状況が分析されている。農民は伝統的にモンゴリナラ林から薪を採集し、オンドルで暖房や料理に利用していたが、1981年以降は集体林以外からの薪採集が禁じられ、伝統的な薪利用システムが変化した。本章では、薪採集に関する林業政策の分析、薪利用の現状に関する聞き取り調査とアンケート調査、採集</p>			

場所に関する参与観察、利用可能な集体林の位置情報についての分析を行い、集体林の現状を解明することを試みている。その結果、集体林における薪資源量の不足による世帯あたり薪消費量の減少、主な薪の入手方法の自給から購入もしくは村人からの譲り受けへの変化、採集場所の国有林やモンゴリナラ林以外の森林への変化、薪を燃料とするオンドルから石炭を燃料とするボイラーへの変化、枯死木や風倒木の利用の増加、が確認された。これらのことから、多くの農民が現在も希望する伝統的な薪利用の再現のためには、現在の集体林の内部に公共的に利用が可能な薪炭林を新たに設定し薪生産量を増加させる必要性が高いことが考察された。

第四章では、野生植物と菌類の食材利用の状況が分析されている。農民は伝統的に野生植物と菌類を食材とする食習慣を維持してきたが、現在では、村落の人口減少や野生植物や菌類の生育地の減少により、伝統的な食材利用の知識が急速に失われつつある。本章では、食材利用に関する伝統的な知識の調査と採集場所に関する参与観察を行い、食材利用を維持していくための方向性に関する解析が行われた。その結果、15種の野生菌類と41種の野生植物について、食材利用に関する知見が得られた。また、地域外の人間による野生食材の乱獲、木材伐採や薪採集の制限によって生じる森林の管理不足に起因する植生遷移の進行や森林の林冠閉鎖等の影響による生育地の劣化、等による採集量の減少が明らかになった。野生植物と菌類の食材としての利用を再度活性化するためには、伝統的な木材資源と非木材林産物の双方を見据えた統合的利用を視野に入れた政策と、乱獲から生育地を保全するシステムが重要であることが示唆された。

第五章では、第二章から第四章で取り扱った森林資源以外の非木材林産物の利用が分析されている。農民は森林から、薬草、蜂蜜、飼料、日用必需品、屋根材等も採集し、利用してきた。本章では、これらの目的で利用される植物等に関する聞き取り調査とアンケート調査、採集場所に関する参与観察と位置情報の分析が行われた。その結果、32種の薬用植物と8種の薬用菌類、28種の蜜源植物、17種の飼料植物、8種の日用必需品用植物、4種の植物性屋根材、の採集利用が確認された。また、これらの利用を維持するために、伝統的な知識や習慣の保護、市場システムの確立、伝統的な採集方法や生育地の保全が必要であることが考察された。

第六章では、本研究において明らかにした、朝鮮族村落における景観や日常生活を支えてきた森林資源利用の伝統的知識、政府の林業政策である伐採制限に起因する森林から得られる生活資源の劣化と不足、及び森林資源利用の継続に対する農民の強い要望、という三つの要素をあわせて総合的に考察し、朝鮮族村落の景観保全に不可欠と考えられる重視すべき点を抽出し、そのための対策を提案している。

第七章は、本論文の各章の概要をとりまとめたものであり、全体の総括となっている。

注) 論文内容の要旨と論文審査の結果の要旨は1頁を38字×36行で作成し、合わせて、3,000字を標準とすること。

論文内容の要旨を英語で記入する場合は、400～1,100 wordsで作成し
審査結果の要旨は日本語500～2,000字程度で作成すること。

(続紙 2)

(論文審査の結果の要旨)

近年中国では、林業政策転換等の様々な政府の政策転換による社会の変貌が進んだことから、少数民族村落の景観保全に関する研究が増加している。しかし、朝鮮族の農村景観や森林資源利用に関して、景観保全の観点から体系的に研究した事例はなかった。本論文は、中国東北部の延辺朝鮮族自治州で特徴的な景観を維持してきた朝鮮族の村落における景観保全のあり方を探ることを目的として、伝統的な森林資源利用の観点から行われた現地調査結果の分析と、政策が資源利用に与えた影響の解析を行ったものである。研究を通して、北朝鮮国境付近の朝鮮族村落における、自然に依存した森林資源利用を分析し、変質しつつある朝鮮族村落の景観の実態を明らかにした。成果として評価すべき点は以下の4点である。

1. 朝鮮族村落は木造民家と付属構造物で構成されるが、これら木造構造物に主に利用される種を、構造材利用と屋根材利用について明らかにすると同時に、入手できる材料の減少と劣化に伴って新たに用いられるようになった樹種についても明らかにした。後者はこれまで指摘されていなかった点であり、朝鮮族村落の景観に影響を与える森林資源利用に関する知見を深めることに寄与した。
2. 農民の森林資源利用を、木材、薪材、食材、薬草、蜂蜜、飼料、日用必需品、屋根材という8つのカテゴリーに分け、それぞれについて聞き取り調査とアンケート調査、参与観察と採集位置情報の解析等を行い、合計で97種の植物と15種の菌類に関する伝統的な利用と管理を明らかにした。中国国内の朝鮮族農民の植物資源利用に関する体系的な情報は初めてのものであり、朝鮮族村落の景観を保全し、伝統的な利用形態の維持を目指す施策を提示する上で不可欠な基礎情報を構築した。
3. 朝鮮族農民は様々な森林資源を統合的に利用する伝統的な習慣を維持してきたが、林業政策の分析と聞き取り調査を通して、伐採制限強化による木材資源の減少と非木材林産物資源の劣化と衰退を示し、政府の林業政策が農村景観や日常生活に与えた影響が深刻な状況にあることを明らかにした。
4. 朝鮮族村落の景観保全と伝統的な森林資源利用の再生のために必要な施策として、森林資源利用に関する農民の要望の理解、伝統的な森林資源利用形態の保全、新たな住宅建設における伝統的資源利用への柔軟な対応が重要であり、そのための検討が必要であることを示し、改善されるべき点について提案を行った。

以上のように、本論文はこれまで報告が少なかった中国朝鮮族村落における森林資源利用に関して体系的な解析を加え、景観保全の観点から考慮されるべき重要な情報と方向性を示すことに成功している。これらの成果は造園学、環境デザイン学、森林科学、景観保全学の分野における発展に寄与するところが大い。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成28年2月10日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。

注) 論文内容の要旨、審査の結果の要旨及び学位論文は、本学学術情報リポジトリに掲載し、公表とする。

ただし、特許申請、雑誌掲載等の関係により、要旨を学位授与後即日公表することに支障がある場合は、以下に公表可能とする日付を記入すること。

要旨公開可能日： 年 月 日以降 (学位授与日から3ヶ月以内)